

愛知県(三河湾・伊勢湾沿岸) 高潮浸水想定区域図について (解説)

1 高潮浸水想定区域図(三河湾・伊勢湾沿岸)の作成について

(1) はじめに

愛知県は、その地形特性から、沿岸の湾奥部での台風等の高潮による影響が大きく、昭和28年の台風13号、昭和34年の台風15号(伊勢湾台風)により甚大な高潮被害を受けました。県内のほとんどの海岸堤防等は、その復興事業で整備され、現在まで高潮水害から県民の生命・財産の防護に寄与してきました。

一方で、近年、洪水のほか内水・高潮等により、想定を超える浸水被害が発生し、今後も発生する可能性があることから、想定し得る最大規模の洪水、内水、高潮に対する危機管理・避難警戒体制等の充実・強化を図るため、平成27年5月に水防法が改正されました。

水防法の改正で、高潮により相当な損害を生ずるおそれがある海岸(水位周知海岸)として指定したもののについて、高潮時の円滑かつ迅速な避難を確保し水災による被害の軽減を図るため、想定し得る最大規模の高潮について浸水想定区域図を公表するとともに、高潮特別警戒水位を設定し、水位を周知する制度が創設されました。

今回、国から示された、「高潮浸水想定区域図作成の手引き Ver.2.00(令和2年6月)」(以下、「手引き」という。)に基づき、三河湾・伊勢湾沿岸の高潮浸水想定区域図を作成しました。

(2) 想定し得る最大規模の高潮について

手引きによると、想定し得る最大規模の高潮としては、日本に接近した台風のうち既往最大規模の台風が、満潮時に潮位偏差が最大となる経路を通過した場合に発生し得る高潮とされています。

今回の想定では、既往最大規模の台風として、中心気圧を室戸台風級(昭和9年、室戸岬付近上陸時911.6hPa)とし、上陸時の気圧(910hPa)を保持したまま、伊勢湾台風級の移動速度(73 km/h)で、各海岸で潮位偏差が最大となる経路を通過する場合を想定しています。

また、高潮時の河川における洪水の流下を考慮し、海岸線だけでなく河川においても高潮の影響を受けて水位が高くなっている状況での氾濫を想定するとともに、堤防等の全ての防護施設は、外力が設計条件に達した段階で決壊することを基本とするなど、最悪の事態を想定しています。

なお、県内に広大なゼロメートル地帯を有することから、高潮の影響を受けた河川では、河川氾濫による浸水範囲が広いため、河川の氾濫のみで浸水が想定される範囲を色分けした図面も作成しました。

さらに、浸水想定区域図と同じ規模の台風で堤防等が決壊しない条件、伊勢湾台風規模の台風が来襲した場合の高潮浸水予想図も併せて作成しました。

2 留意事項

高潮浸水想定区域図を見ていただく際には、以下の留意事項をご確認ください。

(総論)

- 今回の「高潮浸水想定区域図」は、「手引き」に基づき最大規模の外力を想定したものです。「伊勢湾台風(1959年)」を越える日本に上陸した既往最大台風である「室戸台風(1934年)」が、県内沿岸部に対し最も高潮の影響を与える最悪のコースを通過した際における、浸水範囲(最大浸水深)を重ね合わせたもので、本県において考えられる最大級の高潮をシミュレーションにより想定したものです。
- 愛知県は外海に面した遠州灘沿岸を除いては三河湾・伊勢湾の内湾に面しており、高潮の発生しやすい地形特性を有しています。湾の向きが伊勢湾・衣浦湾のように南に開けた湾と、三河湾のように西に開けた湾では、高潮の発生する条件(風向き)が異なると考えられます。このため、各地域において高潮偏差が最大となる台風コースを設定し、浸水計算を行い、それぞれの浸水範囲(最大浸水深)を重ね合わせて、浸水想定区域図を作成しています。
- 河川、海岸には堤防等が整備され、安全性が向上していますが、今回の想定は最悪の被害として堤防が全て設計条件で決壊した場合の浸水を想定したものです。
- 今回想定した高潮(高潮偏差・波浪)は、現在の科学的知見を基に、過去に発生した台風規模から想定したものであり、これよりも大きな高潮が発生する可能性もあります。
- 各種要因により前提条件が異なる場合、浸水域が広がる可能性もあります。

(計算条件)

- 高潮浸水想定区域図は、過去実際に発生した台風を参考に想定最大の台風をモデル化し、海域地形及び潮位条件等の初期条件を設定した上で、台風による風場により生じる高潮偏差を計算します。その後、水際における水位変動より陸域への浸水計算を行います。シミュレーションを実施する際の条件設定の制約から、予測結果には限界があります。
 - ・高潮による河川の水位変化を図示していませんが、高潮の遡上により水位が変化することがあります。なお、幅10m以上の河川については、遡上を計算していますが、幅10m未満の河川や水路については、計算モデル上で河川形状を表現できないため、解析上は幅10m未満となる地点を河川の上流端として、それより上流は遡上計算を実施していません。
 - ・地盤面を基準にどれだけ浸水しているかを表示しているため、この図面には地下街や地下鉄などの地下空間、管渠等への流水の浸入やその影響は考慮していません。
 - ・海岸堤防や河川堤防について、設計条件に達した段階で決壊を想定しています。
 - ・水門、樋門や防潮扉については、閉鎖されていることを想定していますが、堤防と同様に設計条件に達した段階で決壊を想定しています。
 - ・降雨の影響として、木曾川、庄内川、矢作川、豊川、新川、天白川、矢作古川、梅田川のような大河川は整備水準レベルの洪水を考慮していますが、それ以外の中小河川は考慮していません【注】。

- ・地球温暖化に伴い生じる海面上昇量は、今回の想定では見込んでいません。

(利用上の注意点)

- この浸水想定区域図は、愛知県内の三河湾・伊勢湾沿岸を対象に浸水域を表示しています。
- 浸水域や浸水深は、局所的な地形の凸凹や建築物の影響のほか、前提とした各種条件を超える事象により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 地形図は令和元年度に測量したデータを使用しており、現在の地形と異なる場合もあります。なお、堤防高さについては令和2年度現在の高さを反映しています。
- 高潮は台風のコースや来襲時の潮位により、地域によっては高潮が大きくなる場合があります。
- 地下への出入口をはじめ、地下につながっているビルの階段、エレベーター、換気口などが、浸水深図に表示している浸水深より低い位置にある場合、地下空間が浸水する恐れがあります。
- 地盤高が低い地域については、堤防等が被災を受けた場合、高潮が収束した後でも、日々の干満によって、浸水が発生する可能性があります。
- 確実な避難のためには、気象庁が事前に発表する台風情報（気象庁は日本列島に大きな影響を及ぼす台風が接近している時には、24時間先までの3時間刻みの予報などを発表しています。）や、市町村で今後作成されるハザードマップなどを活用してください。
- 台風が来襲する前に避難を完了し、高潮警報や避難勧告が解除されるまでは、避難を継続する必要があります。

(その他)

- 今後、数値の精査や表記の改善等により、修正する可能性があります。

【注】

降雨による浸水、河川の氾濫については、市町村が公表している洪水ハザードマップや、本県が県ウェブページで公表している各河川の想定浸水情報(*)を参照してください。

(*) 県ウェブページのアドレス（浸水想定情報の提供）

http://www.pref.aichi.jp/kasen/koumoku/joho_teikyo/joho_index.htm

3 高潮浸水想定の記事事項及び用語の解説

(1) 記事事項

<基本事項>

- ①浸水域
- ②浸水深
- ③留意事項
- ④浸水継続時間

(2) 用語の解説 (図-1 参照)

①高潮

台風などの気象じょう乱により発生する潮位の上昇現象。台風や発達した低気圧が通過するとき、潮位が大きく上昇することがあり、これを「高潮」といいます。

②浸水域

海岸線から陸域に高潮が押し寄せることが想定される区域で、高潮や高波に伴う越波・越流によって海水により浸水する範囲です。

③浸水深

陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地盤面から水面までの高さです。図-2のような凡例で表示しています。

④高潮偏差

天体の動きから算出した天文潮（推算潮位）と、気象などの影響を受けた実際の潮位との差（ずれ）を潮位偏差といい、その潮位偏差のうち、台風などの気象じょう乱が原因であるものを特に「高潮偏差」と言います。

⑤朔望平均満潮位

朔（新月）および望（満月）の日から5日以内に現れる各月の最大満潮面の平均値です。

⑥高潮水位

台風期の平均満潮位に高潮偏差の高さを加えたもので、台風来襲時に想定される海水面の高さを指します。

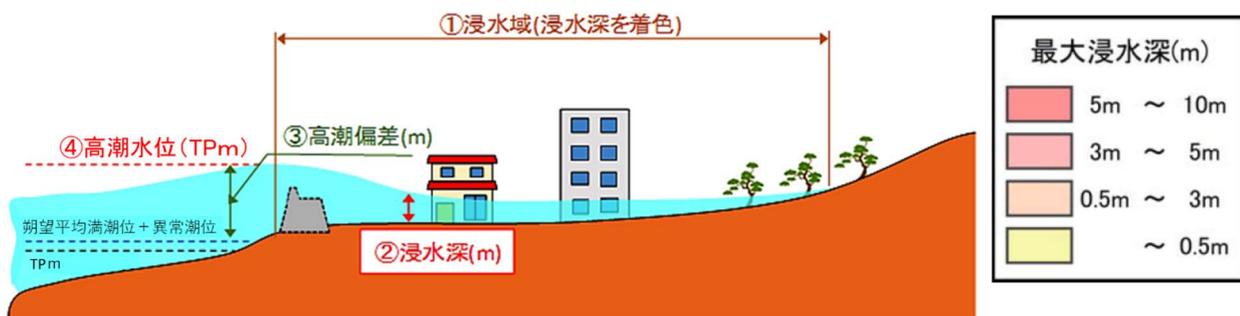


図-1 高潮水位の定義

図-2 浸水深の凡例

(3) 高潮に関する基礎知識

高潮は、主に「気圧低下による吸い上げ効果」と「風による吹き寄せ効果」が原因となって起こります。また、満潮と高潮が重なると高潮水位はいっそう上昇して、大きな災害が発生しやすくなります。

① 気圧低下による吸い上げ効果

台風や低気圧の中心では気圧が周辺より低いため、気圧の高い周辺の空気は海水を押し下げ、中心付近の空気が海水を吸い上げるように作用する結果、海面が上昇します。気圧が1ヘクトパスカル(hPa)下がると、潮位は約1センチメートル上昇と言われています。(右図の「A」の部分)

例えば、それまで1000ヘクトパスカルだったところへ中心気圧950ヘクトパスカルの台風が来れば、台風の中心付近では海面は約50センチメートル高くなり、そのまわりでも気圧に応じて海面は高くなります。

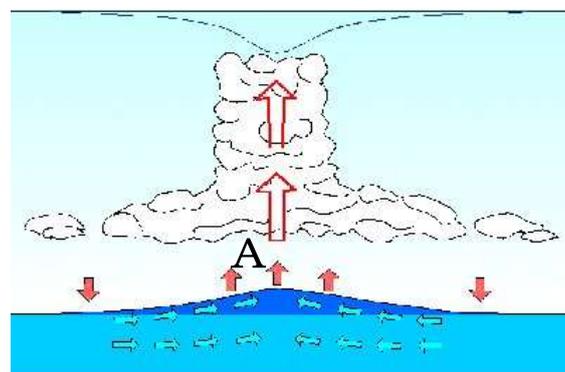


図-3 吸い上げ効果

出典：国土交通省「高潮発生のメカニズム」

(http://www.mlit.go.jp/river/pamphlet_jirei/kaigan/kaigandukuri/takashio/1mecha/01-2.htm)

② 風による吹き寄せ効果

台風や低気圧に伴う強い風が沖から海岸に向かって吹くと、海水は海岸に吹き寄せられ、海岸付近の海面が上昇します。この効果による潮位の上昇は風速の2乗に比例し、風速が2倍になれば海面上昇は4倍になります。

また遠浅の海や、風が吹いてくる方向に開いた湾の場合、地形が海面上昇を助長させるように働き、特に潮位が高くなります。(右図の「B」の部分)

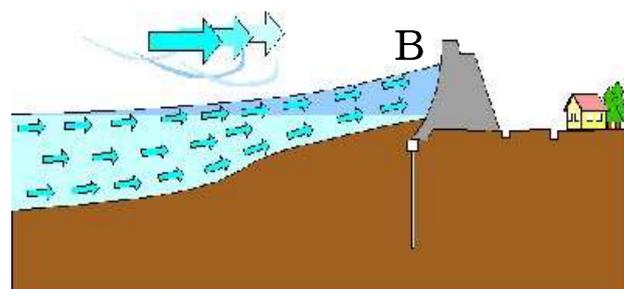


図-4 吹き寄せ効果

出典：国土交通省「高潮発生のメカニズム」

(http://www.mlit.go.jp/river/pamphlet_jirei/kaigan/kaigandukuri/takashio/1mecha/01-2.htm)

4 想定台風の設定について

高潮による浸水の危険性を明らかにするため、「手引き」に基づいた以下の想定台風を設定しました。

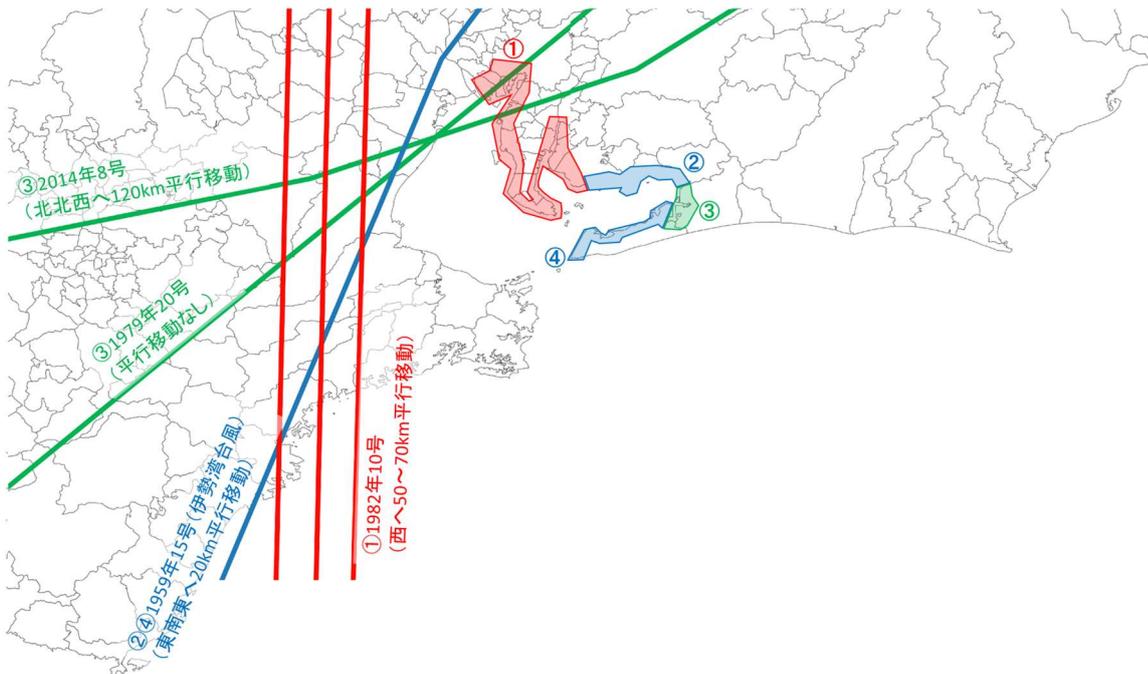
(1) 台風規模

台風規模は、日本に上陸した既往最大台風である「室戸台風級」を設定しました。

- 中心気圧 910hPa【発生確率 五百年から数千年】
- 半径 75km
- 速度 73km/h

(2) 台風コース

湾の形状などに代表される地形特性と、台風の進路による風向きを考慮し、以下の4つの地区を設定し、各ゾーンにおいて高潮偏差が最大となる代表台風コース（図－5参照）を設定しました。



ゾーン	範囲	台風	平行移動量
ゾーン①	三重県境～矢作古川	1982年第10号	西へ50～70km
ゾーン②	矢作古川～豊川	1959年第15号	東南東へ20km
ゾーン③	豊川～田原2区	1979年第20号 2014年第8号	移動なし (NE) 北北西へ120km (ENE)
ゾーン④	田原1区～伊良湖岬	1959年第15号	東南東へ20km

図－5 想定した台風コース

5 主な計算条件の設定について

次の条件を前提に、計算条件を設定しています。

(1) 潮位

「手引き」に準じ、朔望平均満潮位を用いました。また、異常潮位（台風などによって引き起こされる高潮や地震に伴う津波とは異なった原因で、潮位がある程度の期間（概ね1週間から3か月程度）継続して高く（もしくは低く）なる現象）として15.2cmを加算しました。

(2) 各種構造物の取扱い

高潮の来襲時点での堤防等は健全としています。また、台風の来襲時期は気象情報等により事前把握できるため、水門、樋門や防潮扉は事前に閉鎖する操作が可能なため、計算条件では閉鎖としています。

その後、堤防、水門等は高潮が来襲し、設計条件に達した時点で決壊することとします。

表－1 構造物条件

構造物の種類	条件
海岸・河川堤防	台風の来襲時点では健全とし、設計条件に達した時点で決壊としています。
防波堤	台風の来襲時点では健全とし、設計条件に達した時点で決壊としています。
道路・鉄道（盛土構造）	地形として設定しています。
水門、樋門及び防潮扉	閉鎖としています。ただし、設計条件に達した時点で決壊としています。
建築物	建物の代わりに、高潮が押し寄せるときの粗度（氾濫流が阻害される度合）を設定しています。

(3) 河川流量

浸水想定区域図の作成に際して、一定流量（流量が1,000m³/s以上）の河川については河川流量を考慮し、河道内の水位を設定しました。また、高潮の影響区間において決壊させ、浸水区域を重ね合わせることで、浸水図を作成しています。

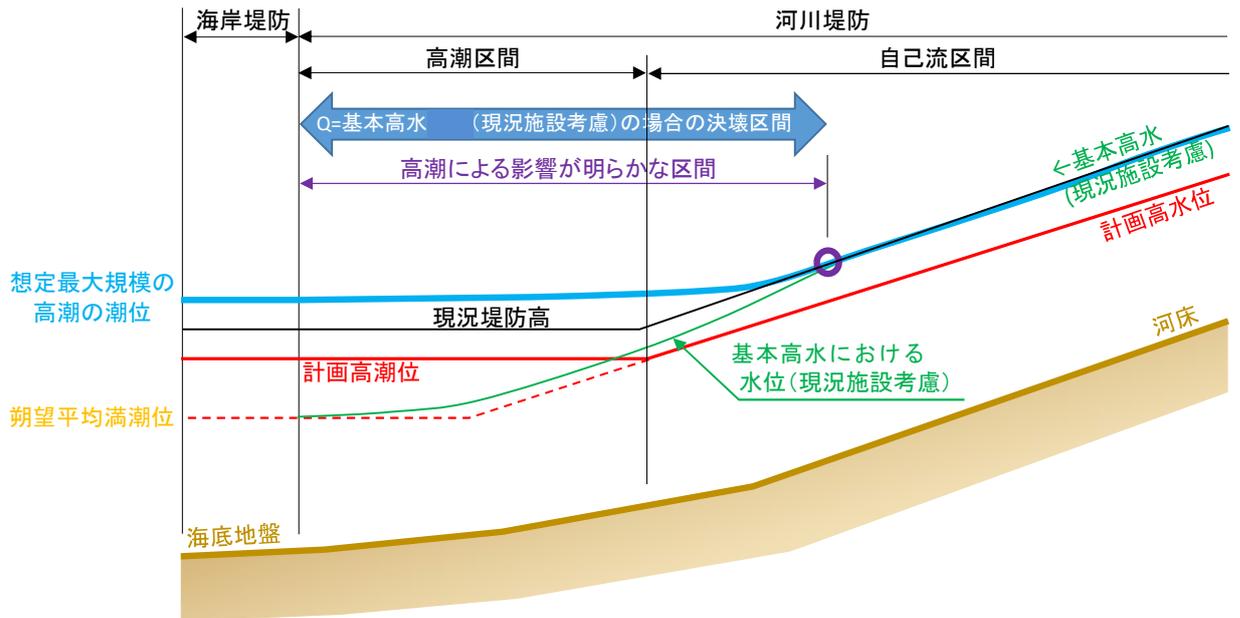
対象とする河川は以下の通りです。

表-2 河川流量を設定した河川

管理者	河川名	流量 (m ³ /s)
国直轄	木曾川	19,500 (犬山地点)
	庄内川	4,500 (枇杷島地点)
	矢作川	8,100 (岩津地点)
	豊川	7,100 (石田地点)
県管理	新川	1,215 (萱津橋地点)
	天白川	1,150 (野並地点)
	境川	1,000 (泉田地点)
	矢作古川	1,040 (河口部)
	梅田川	1,100 (河口部)
	日光川	1,200 (河口部)



図-6 対象河川



図一 7 高潮影響範囲

(4) シミュレーションの基本条件

① 計算領域及び計算格子間隔

- 1) 計算領域は、台風コースの進路を包含できる範囲から海域の地形を再現できる詳細な範囲まで、愛知県に近づくにつれて順次小さくしました。
- 2) 計算格子間隔は、日本沿岸を含む領域を 2,430m とし、順次、メッシュサイズを 1/3 にしながら接続し、海域における最小メッシュサイズは 30m としました (図一 8、9 参照)。陸域に関しては、陸上地形を再現できる程度の解像度として 10m メッシュ (図一 10 参照) としました。

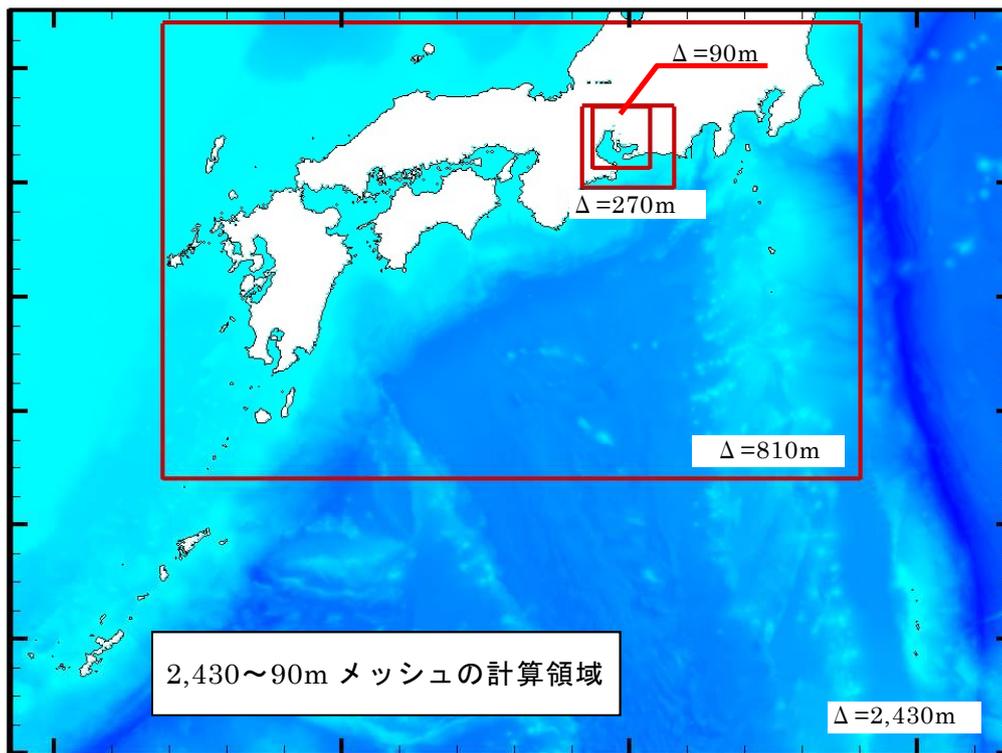
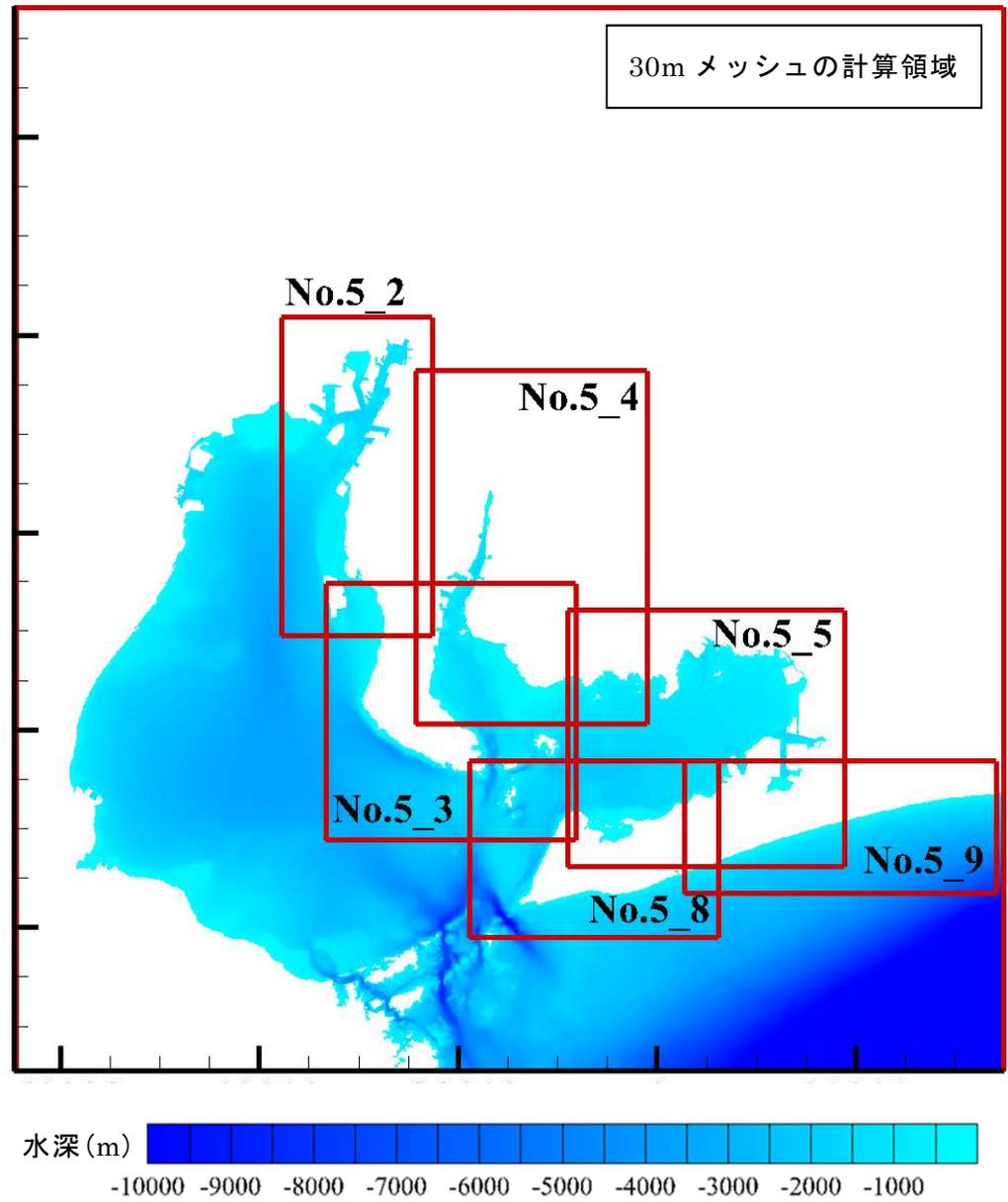


図-8 計算領域及び計算格子間隔 (2,430m~90m メッシュ)



図－9 計算領域及び計算格子間隔（30m メッシュ）

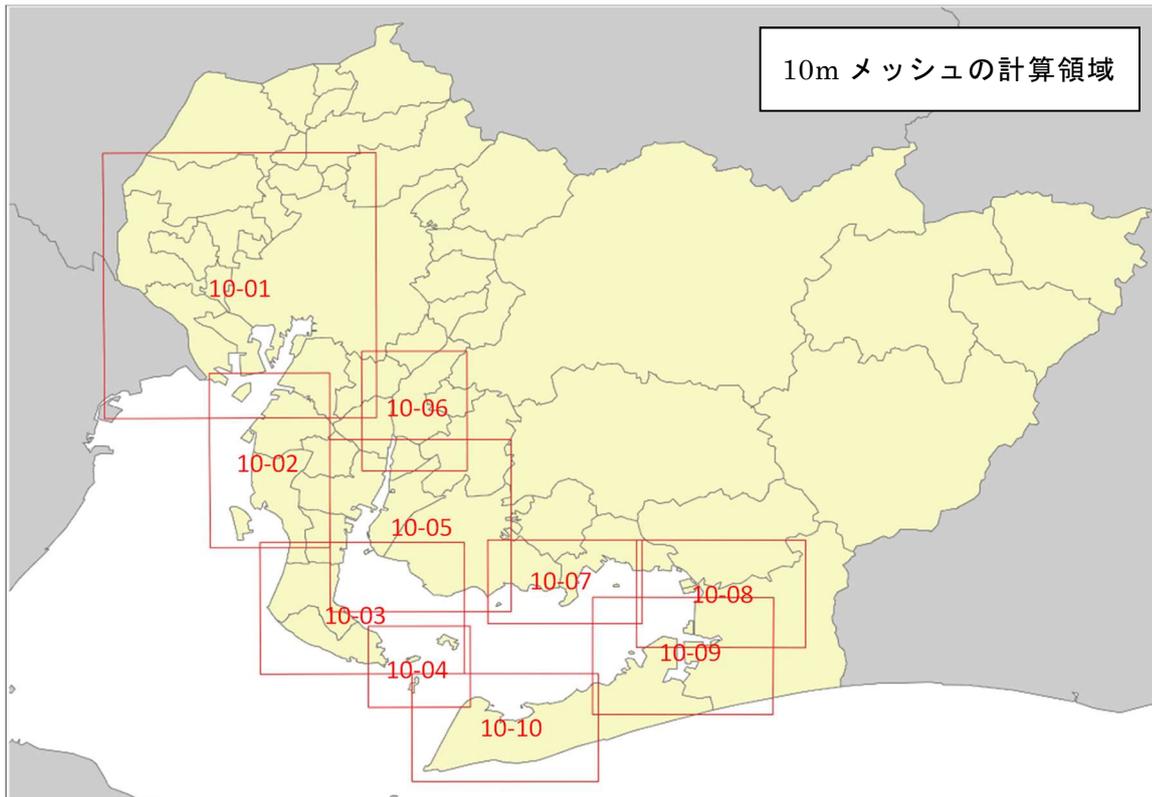


図-10 計算領域及び計算格子間隔 (10m メッシュ)

②計算時間及び計算時間間隔

計算時間は、高潮による最大浸水範囲、最大浸水深が計算できるように最大 48 時間とし、計算時間間隔は、計算が安定するように 0.1 秒間隔としました。

③陸域及び海域地形

1) 陸域地形

- ・陸域地形（地盤標高）は、愛知県が令和元年度に実施した航空レーザー測量の結果（LPデータ）を用いました。
- ・海岸堤防や河川堤防等は、各施設管理者の測量結果等を用いて作成しました。

2) 海域地形

- ・海域地形は、海図、海底地形デジタルデータ（M7000 シリーズ、JT0P030 : (財) 日本水路協会）を用いました。

④初期水位

1) 潮位

愛知県沿岸における各地域の朔望平均満潮位から、図-10 に示す計算領域ごとの初期水位を設定しました。

表-3 設定した初期水位

計算領域 No.	計算領域の名称	初期水位 (m、TP 表示)
0010-1	名古屋港・海部地域	1.2
0010-2	名古屋港・知多北部	1.1
0010-3	知多南部	1.0
0010-4	島嶼部	1.0
0010-5	衣浦港	1.1
0010-6	衣浦港奥部	1.1
0010-7	西尾・蒲郡	1.1
0010-8	三河港北部	1.0
0010-9	三河港南部	1.0
0010-10	渥美西部	1.0

6 高潮浸水想定区域図

三河湾・伊勢湾沿岸の高潮浸水想定区域図は、以下のとおりです。

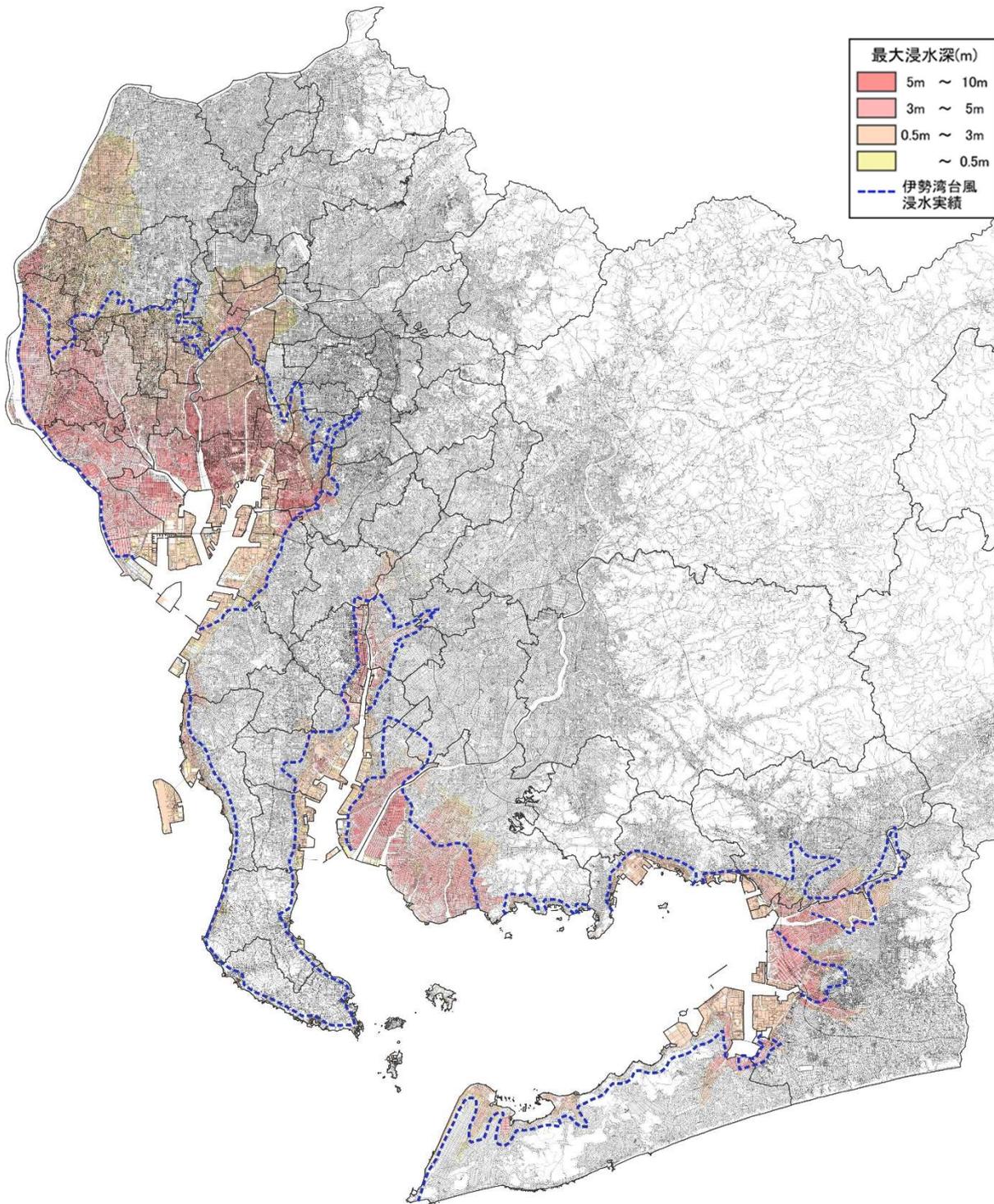


図-11 想定最大の浸水想定区域図

(1) 市区町村別の浸水面積、浸水深

今回の高潮浸水想定による沿岸の市区町村別の浸水面積及び浸水深は、下記のとおりです。

表－４ 市区町村別の浸水面積

	浸水面積 (ha)	最大浸水深 (m)
名古屋市	13,676	9.9
豊橋市	5,738	9.9
一宮市	3,253	3.4
半田市	1,618	5.7
豊川市	1,461	7.7
津島市	2,363	5.7
碧南市	2,207	7.2
刈谷市	1,045	8.1
安城市	35	1.4
西尾市	6,929	9.4
蒲郡市	985	4.3
常滑市	1,333	4.4
稲沢市	4,037	8.4
東海市	1,730	8.5
大府市	323	5.8
知多市	1,021	4.4
知立市	96	4.7
高浜市	317	5.5
豊明市	88	4.6
田原市	3,363	5.6
愛西市	5,635	9.9
清須市	1,059	5.9
北名古屋市	499	3.4
弥富市	4,355	9.9
あま市	2,477	5.2
豊山町	6	2.7
大治町	608	6.5
蟹江町	1,054	5.7
飛島村	2,011	9.8
阿久比町	21	3.6
東浦町	838	6.9
南知多町	353	2.4
美浜町	350	3.2
武豊町	536	3.7
	71,420	

【注】

浸水面積とは、河川等水域部分を除いた陸域部の浸水深 1cm 以上の範囲の面積を集計したものです。小数点以下第一位を四捨五入しています。ゼロメートル地帯では、農地等の地盤が低い箇所では浸水が深くなる傾向となります。

(2) 市区町村別の最高高潮水位

今回の高潮浸水想定による沿岸の市区町村別の最高高潮水位は、下表のとおりです。

表－5 市区町村別の最高高潮水位

市区町村名	最高高潮水位		
	期望平均満潮位＋異常潮位 (TPm)	最大高潮偏差 (m)	最高高潮水位【注4】 (TPm)
弥富市	1.35	5.05	6.4
飛島村	1.35	5.65	7.0
名古屋市港区	1.35	5.91	7.3
名古屋市南区	1.35	5.84	7.2
東海市	1.35	5.39	6.7
知多市	1.25	4.70	6.0
常滑市	1.25	3.89	5.1
美浜町	1.15	3.08	4.2
南知多町	1.15	2.49	3.6
武豊町	1.25	3.46	4.7
半田市	1.25	3.80	5.0
東浦町	1.25	4.69	5.9
刈谷市	1.25	4.69	5.9
高浜市	1.25	4.32	5.6
碧南市	1.25	3.68	4.9
西尾市	1.25	3.49	4.7
蒲郡市	1.25	4.47	5.7
豊川市	1.15	4.55	5.7
豊橋市	1.15	4.64	5.8
田原市	1.15	4.30	5.4

【注】 最高高潮水位とは、陸地と海の境界（水際線）から沖合い約30m地点における高潮の水位を標高で表示しています。小数点以下第二位を切り上げています。

(3) 代表地点における最高高潮水位

今回の高潮浸水想定による沿岸の市区町村の代表地点における最高高潮水位は、下表のとおりです。次ページには、各代表地点の最高高潮水位を図示しました。

表－6 代表地点の最高高潮水位

代表地点	最高高潮水位		
	朔望平均満潮位＋異常潮位 (TPm)	最大高潮偏差 (m)	最高高潮水位【注4】 (TPm)
弥富市(海部)	1.35	5.05	6.4
弥富市	1.35	4.92	6.3
飛島村	1.35	5.26	6.6
名古屋港(大手)	1.35	5.87	7.2
名古屋港(ガーデン)	1.35	5.87	7.2
名古屋港(昭和)	1.35	5.78	7.1
名古屋港(潮見)	1.35	5.40	6.8
東海市	1.35	5.00	6.3
知多市	1.25	4.09	5.3
常滑市(大野)	1.25	3.84	5.1
常滑市(鬼崎漁港)	1.25	3.64	4.9
常滑港	1.25	3.89	5.1
美浜町(上野間)	1.15	3.08	4.2
美浜町(富具崎)	1.15	2.62	3.8
南知多町(内海)	1.15	2.40	3.6
南知多町(豊浜漁港)	1.15	2.29	3.4
南知多町(師崎)	1.15	2.33	3.5
南知多町(篠島)	1.15	2.19	3.3
南知多町(日間賀島)	1.15	2.38	3.5
美浜町(河和)	1.25	2.69	3.9
武豊町	1.25	3.14	4.4
衣浦港(半田)	1.25	3.61	4.9
衣浦港(亀崎)	1.25	3.80	5.0
東浦町	1.25	4.63	5.9
刈谷市	1.25	4.64	5.9
高浜市(吉浜)	1.25	4.40	5.7
衣浦港(高浜)	1.25	4.18	5.4
衣浦港(碧南)	1.25	3.26	4.5
衣浦港(平坂)	1.25	3.19	4.4
西尾市(佐久島)	1.15	2.65	3.8
西尾市(一色漁港)	1.25	3.22	4.5
西尾市(宮崎)	1.25	3.09	4.3
西尾市(東幡豆)	1.25	3.31	4.6
蒲郡市(知柄漁港)	1.25	3.45	4.7
蒲郡市(形原漁港)	1.25	3.80	5.1
三河港(蒲郡)	1.25	3.95	5.2
蒲郡市(三谷漁港)	1.25	4.27	5.5
三河港(大塚)	1.15	4.41	5.6
豊橋市(前芝)	1.15	4.64	5.8
豊橋市(神野)	1.15	4.39	5.5
三河港(大崎)	1.15	4.45	5.6
田原市(谷熊)	1.15	4.15	5.3
田原市(白谷)	1.15	3.59	4.7
田原市(宇津江)	1.15	3.08	4.2
田原市(泉)	1.15	2.96	4.1
田原市(福江)	1.15	2.61	3.8
田原市(伊良湖)	1.15	2.30	3.5

【注】 最高高潮水位とは、陸地と海の境界（水際線）から沖合い約 30m 地点における高潮の水位を標高で表示しています。小数点以下第二位を切り上げています。

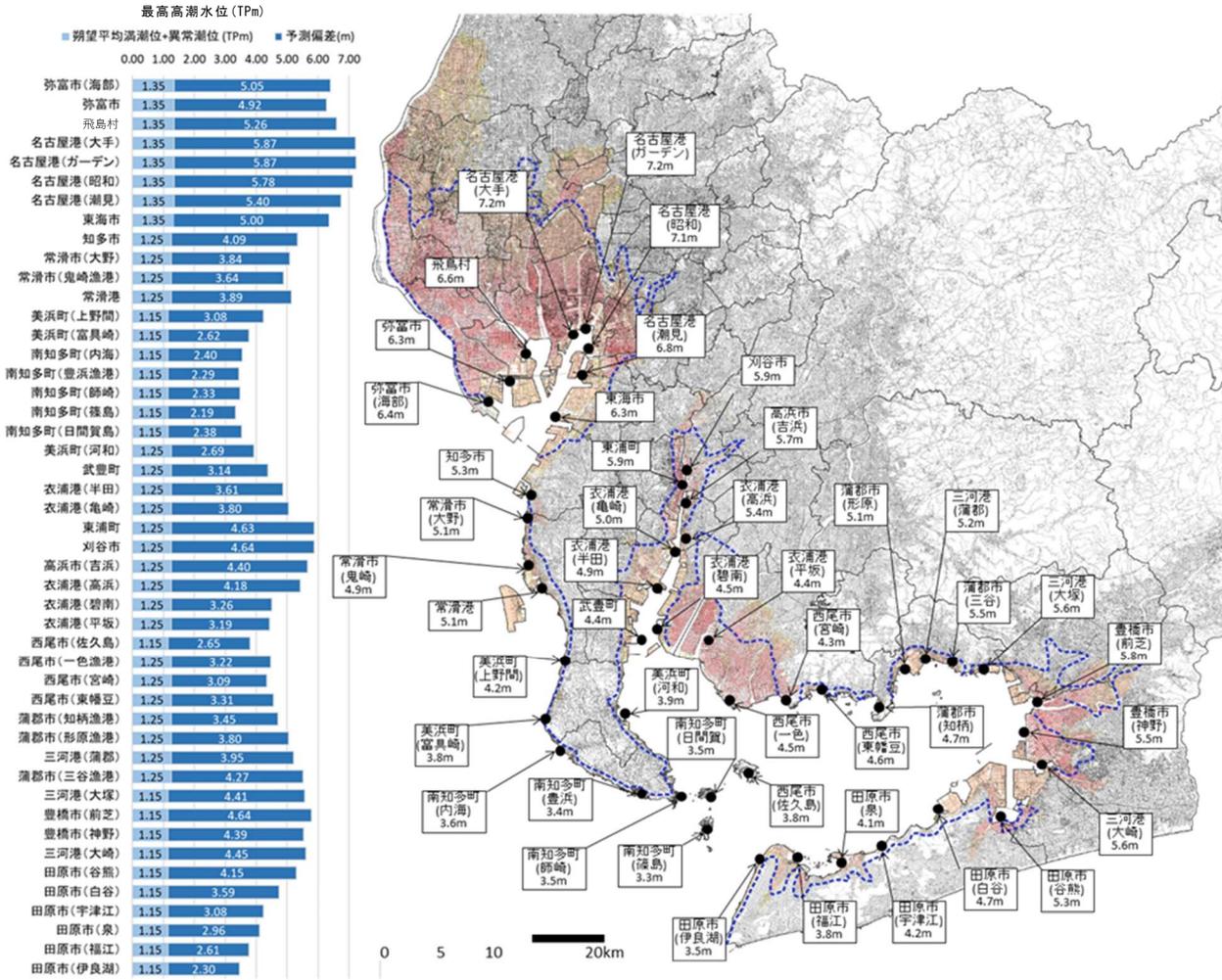
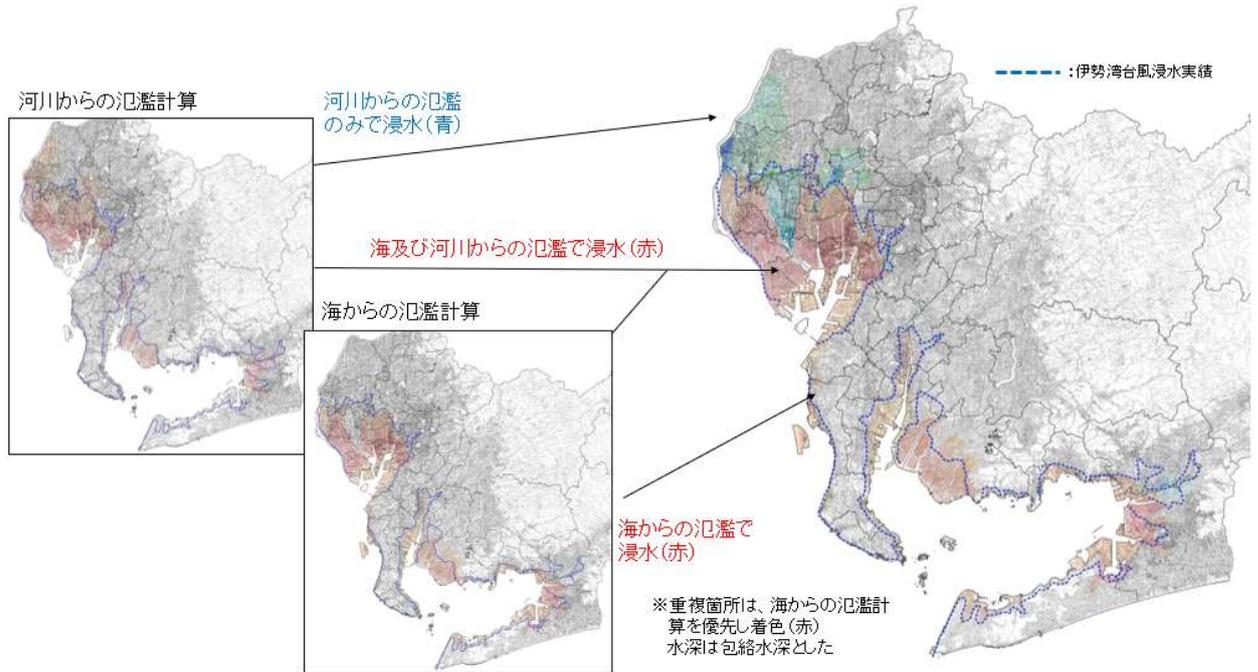


図-12 代表地点の潮位

7 河川色分け図

愛知県は、広大なゼロメートル地帯を有しており、高潮の影響が河口から相当な距離まで及ぶことから、その影響で河川からの氾濫で浸水が想定される範囲が大きくなります。

このため、高潮の影響を受け、河川からの氾濫が発生することを周知するため、河川からのみの浸水が想定される範囲を色分けした図面を参考情報として併せて作成しました。



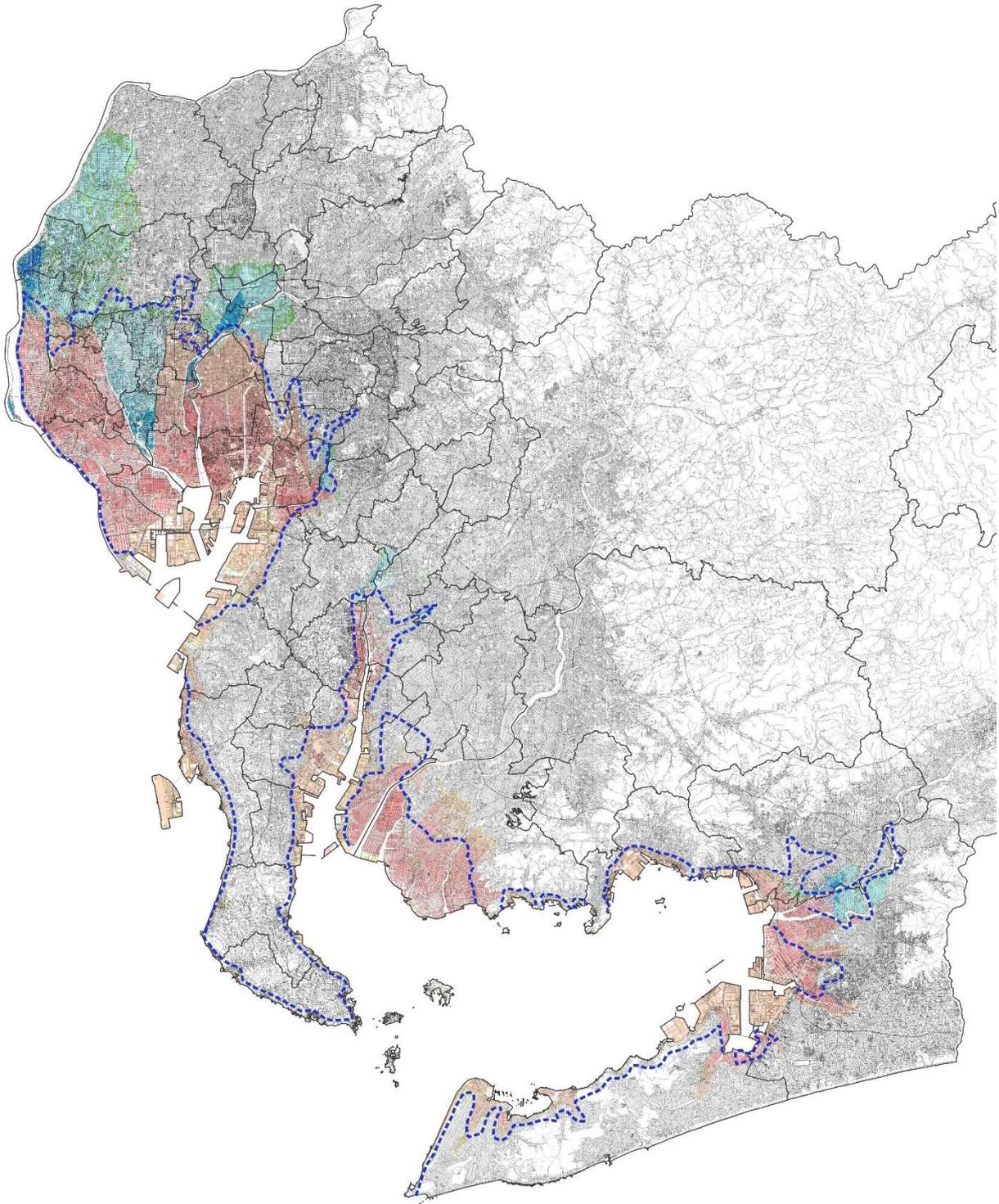
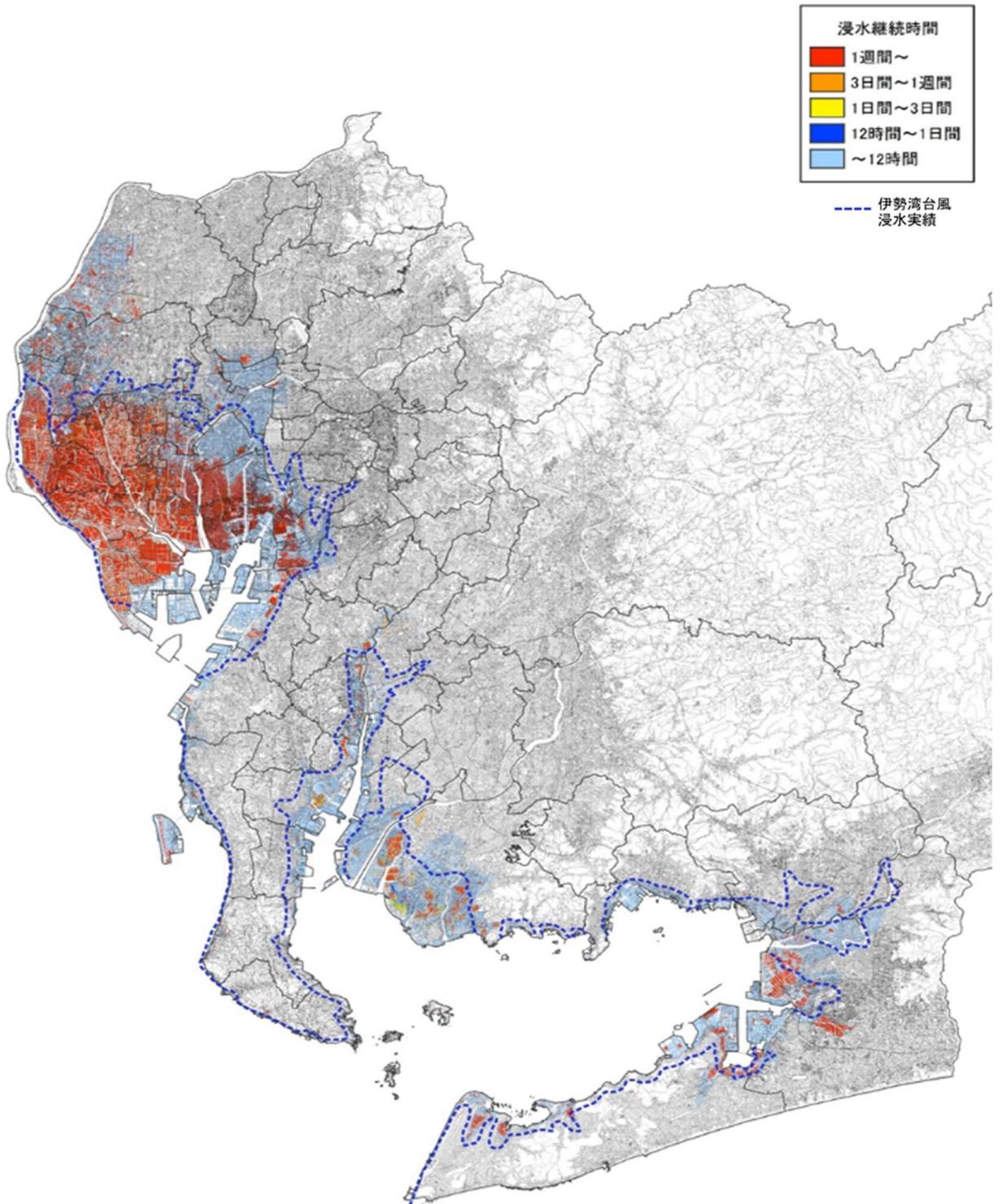


图-13 高潮浸水想定区域图（参考：河川色分け）

8 浸水継続時間

三河湾・伊勢湾沿岸において、水防法の規定により定められた想定し得る最大規模の高潮による氾濫が海岸や河川から発生した場合に、0.5m以上の浸水が想定される区域、想定される浸水継続時間を表示した図面です。



図－14 浸水継続時間

9 最大規模以外の外力による高潮浸水予想

危機管理に活用し、市町村が避難指示等の対象範囲を判断することができる情報として活用するとともに、住民、企業等に高潮のリスクを周知することを目的として想定最大規模の高潮以外の外力条件を設定して浸水予想を行いました。

(1) 検討ケース

想定しうる最大クラスと同様の「室戸台風級」における堤防が決壊しないケースおよび「伊勢湾台風級」における堤防が決壊しないケースの2ケースとしました。

(2) 台風規模

参考ケースの台風規模として、「伊勢湾台風級」を追加しました。

コースは、4.(2)と同様とし、愛知県に接近時の気圧を伊勢湾台風等との940hPa（上陸時は929hPa）と設定しました。

(3) 決壊条件

海岸堤防等の構造物については、決壊しない条件としました。

(4) その他

上記(1)～(3)の他は、最大規模と同じ条件としました。

また、高潮浸水想定区域図と同様に、河川色分け図も作成しました。

高潮浸水予想図(堤防等決壊なし)

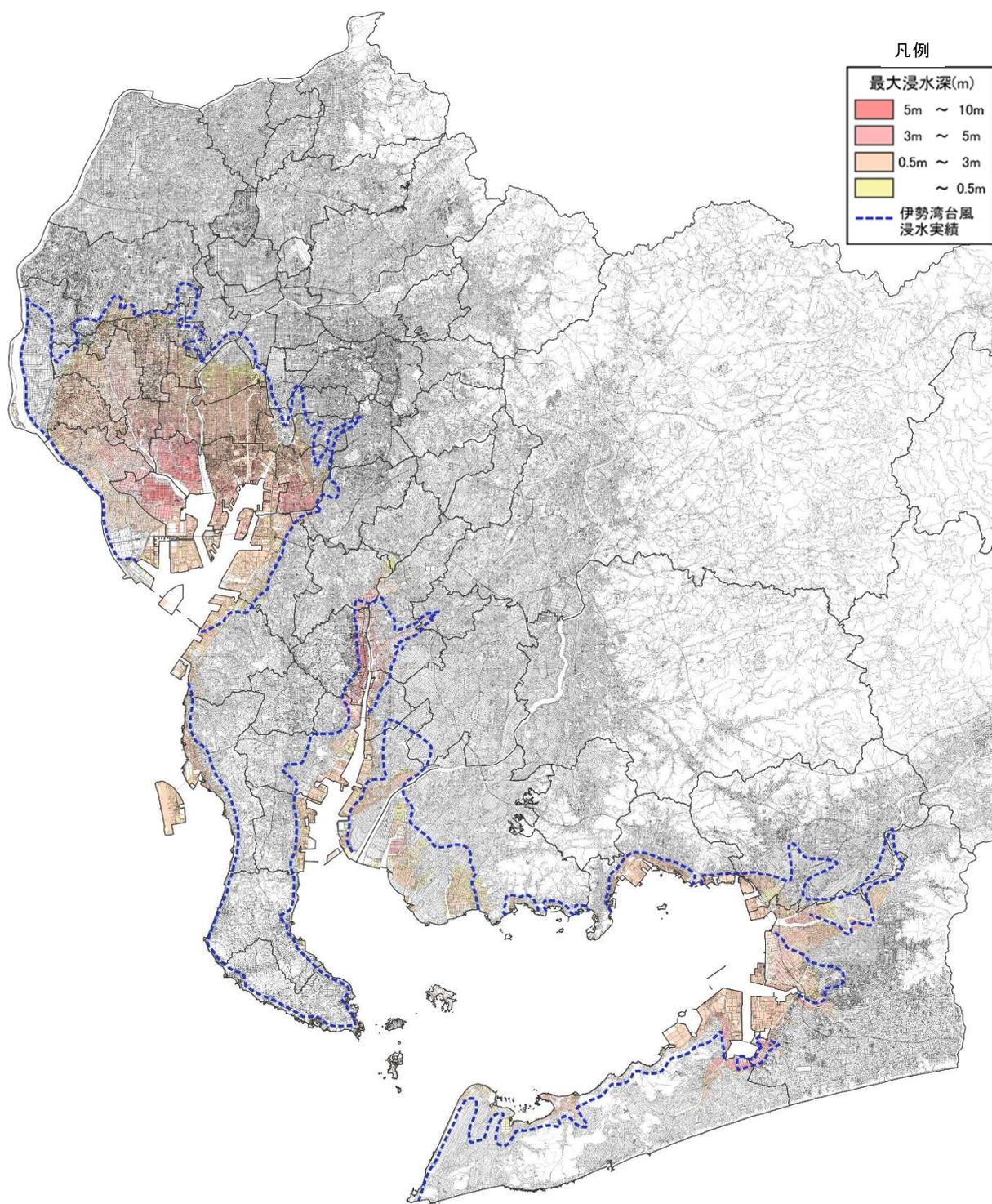


図-15 高潮浸水予想図(堤防等決壊なし)

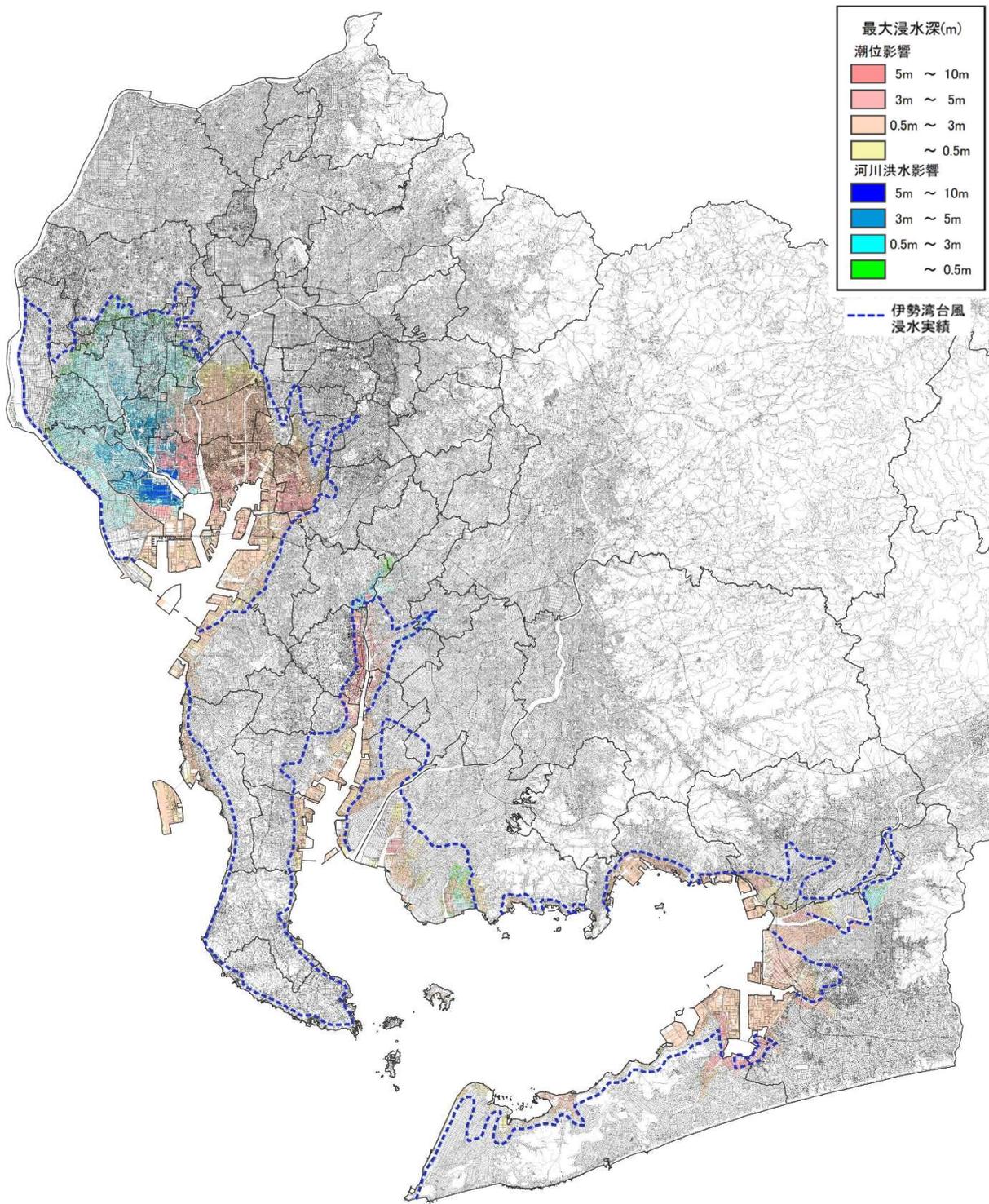


図-16 高潮浸水予想図（堤防等決壊なし）（河川色分け）

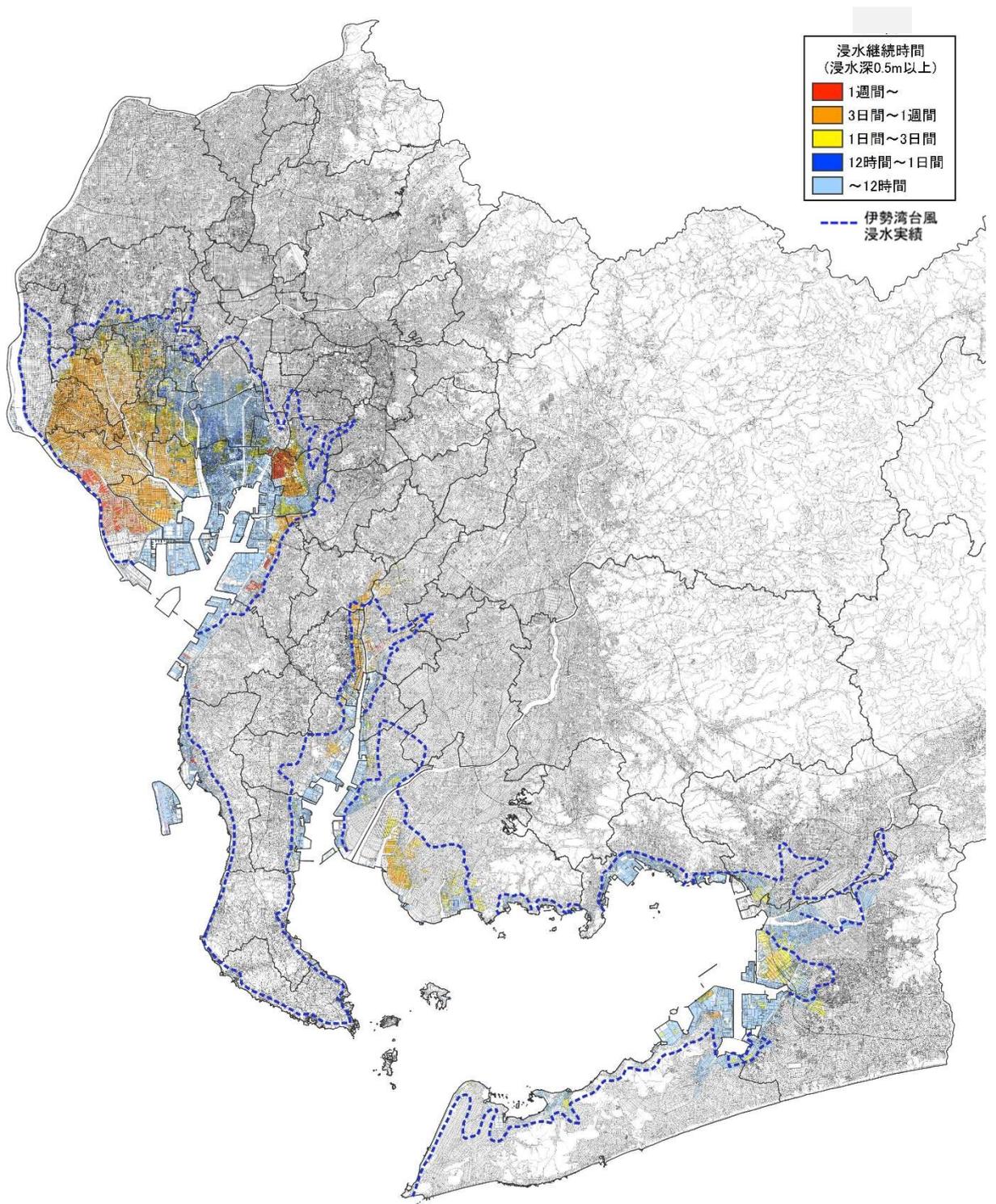


図-17 高潮浸水予想図(室戸台風規模・堤防等決壊なし)(浸水継続時間)

高潮浸水予想図(伊勢湾台風規模・堤防等決壊なし)

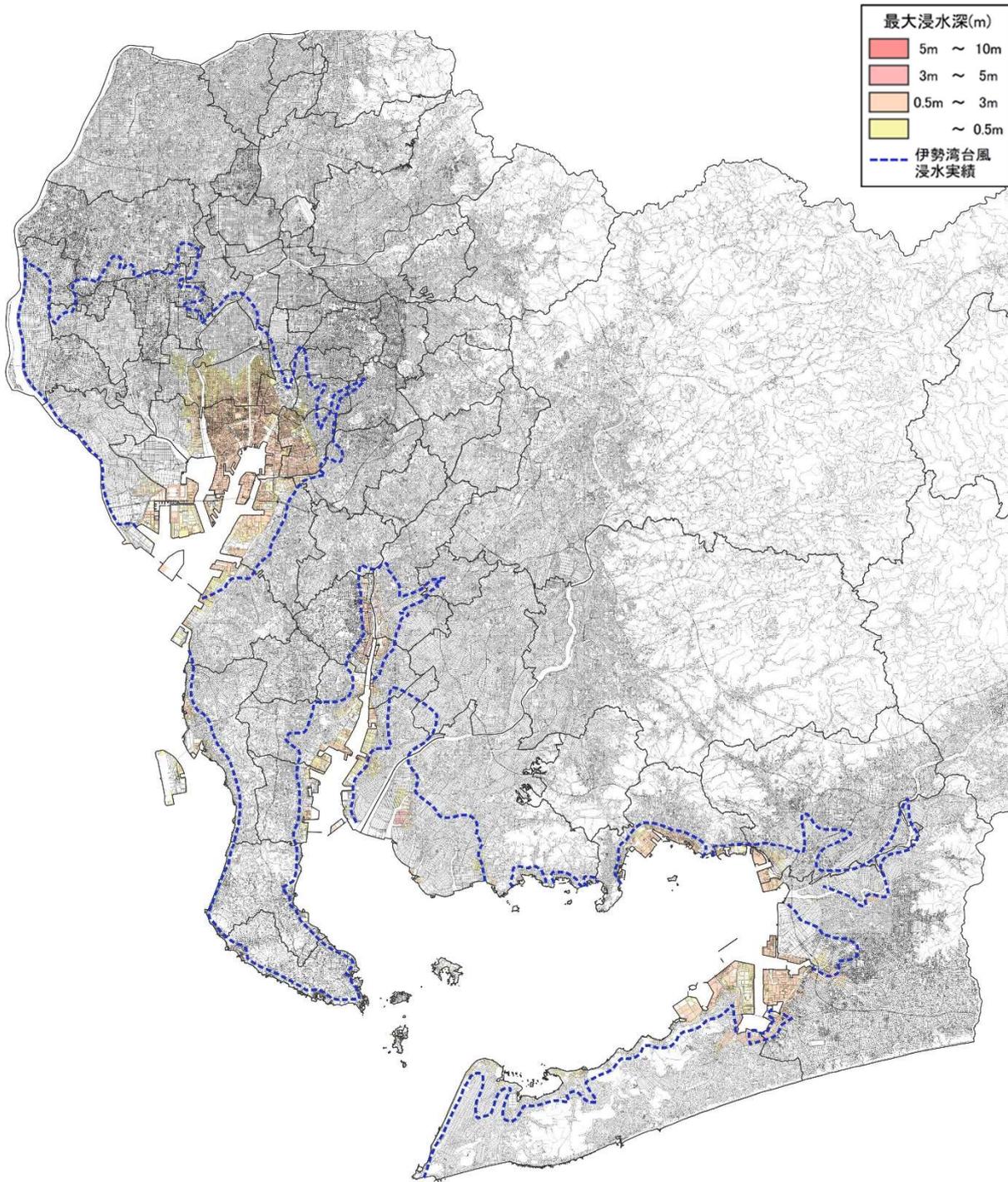


図-18 高潮浸水予想図(伊勢湾台風規模・堤防等決壊なし)

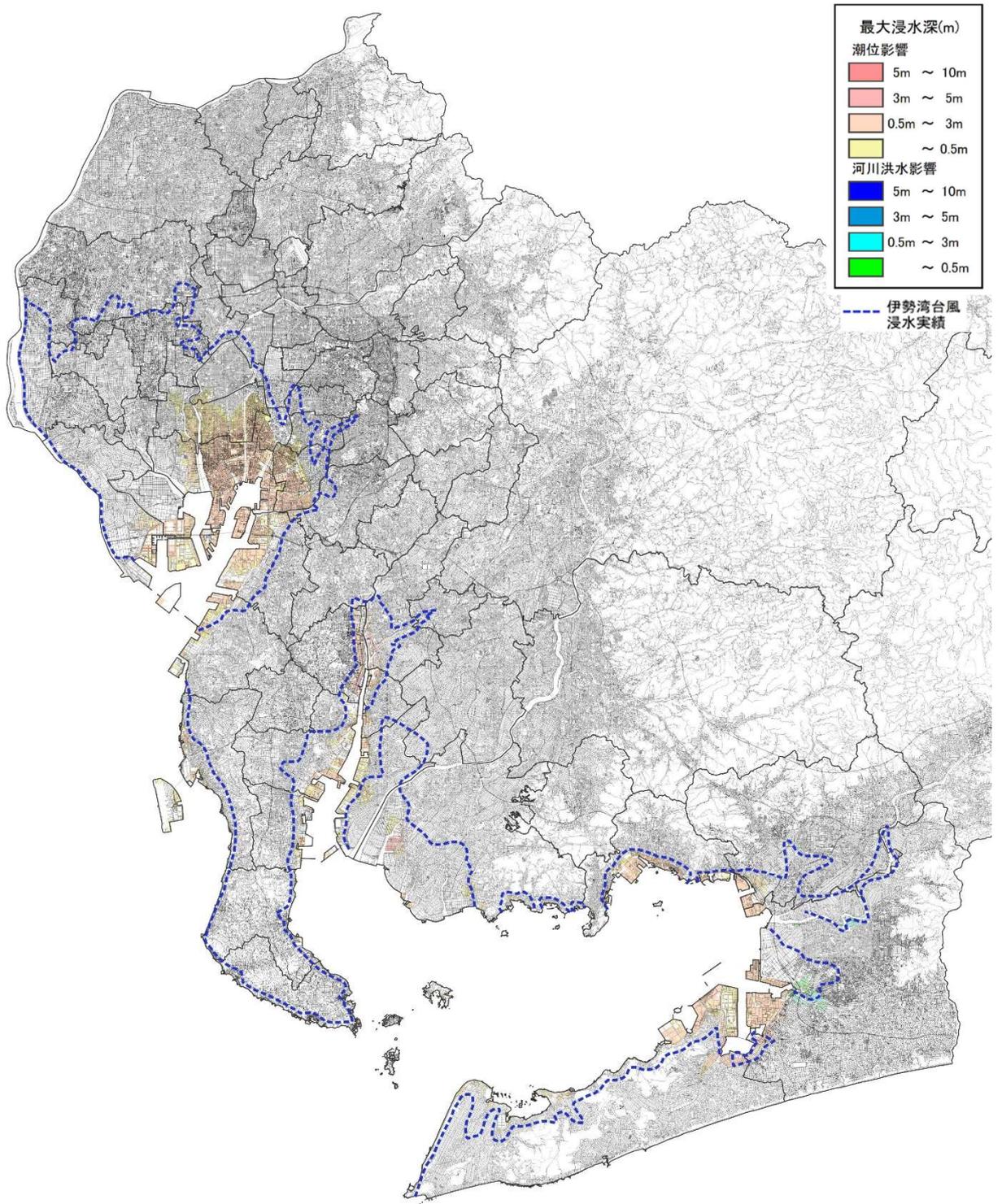
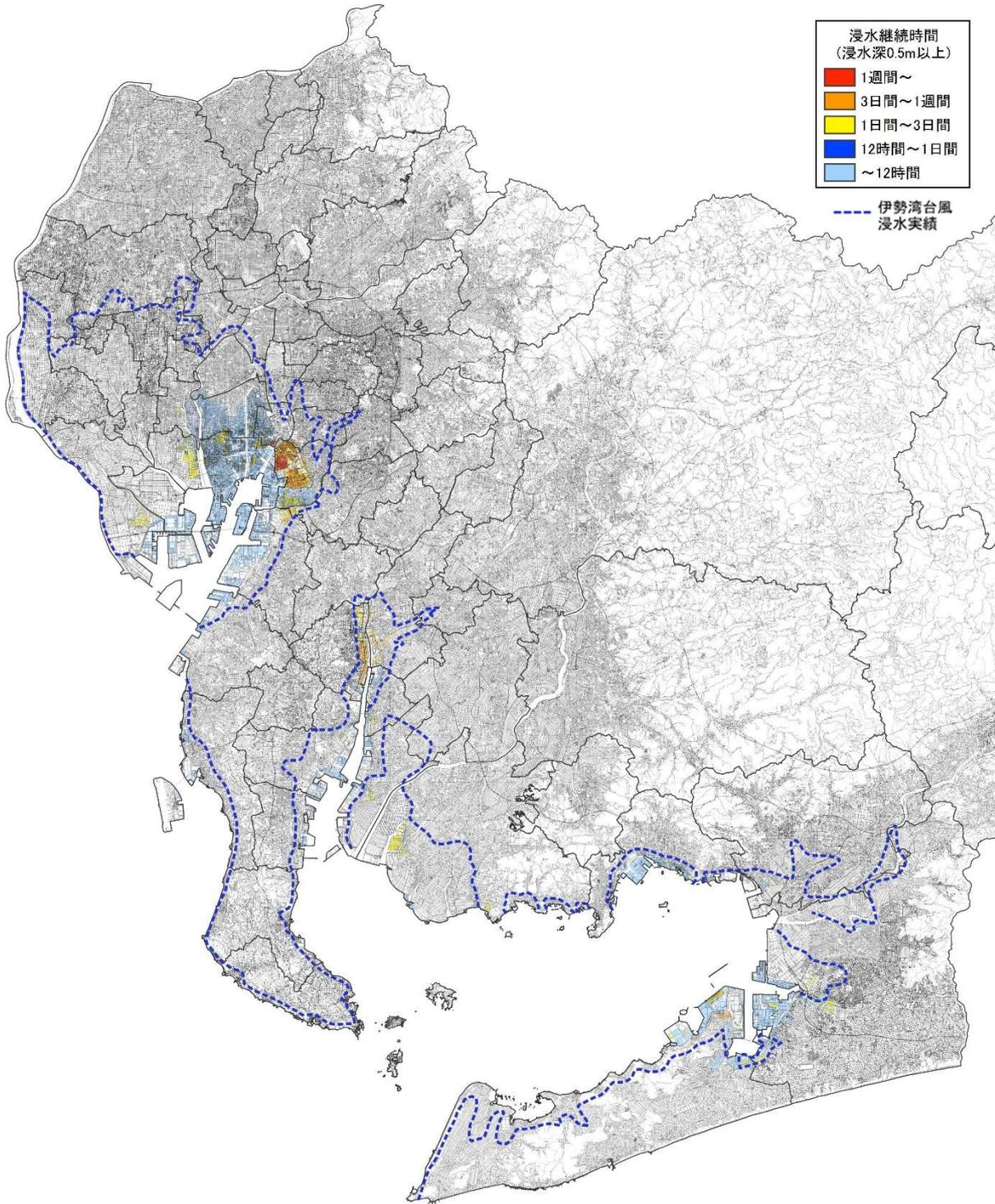


図-19 高潮浸水予想図（伊勢湾台風規模・堤防等決壊なし）（河川色分け）



図－20 高潮浸水予想図（伊勢湾台風規模・堤防等決壊なし）（浸水継続時間）

10 高潮浸水想定区域図の検討体制

今回の高潮浸水想定区域図は、学識者や海岸管理者、防災関係者で構成する「愛知県高潮対策検討委員会」（平成 28、29 年、令和 2 年度に開催）において、様々な意見をいただき資料を作成しました。

表－7 検討会の構成委員（R3 時点）＜敬称略＞

	氏名	所 属	備考
学識者	喜岡 渉	名古屋工業大学 名誉教授(海岸)	委員長
	水谷 法美	名古屋大学 教授(海岸)	
	高木 朗義	岐阜大学 教授(防災)	
防災関係機関	木村 吉誠	愛知県 防防災安全局防災危機管理課長	
	岸田 卓己	愛知県 防防災安全局災害対策課長	
	高倉 俊夫	名古屋市 防災危機管理局 危機管理企画室長	
	白井 住昌	豊橋市 危機管理統括部長	
	柘植 信彦	半田市 総務部防災監	
	山本 吉明	西尾市 危機管理局長	
	渡邊 秀樹	弥富市 総務部長	
施設管理者等	舛田 直樹	愛知県建設局 治水防災対策監(河川、海岸 管理者)	
	本間 士朗	名古屋港管理組合 総務部危機管理監 (海 岸・港湾管理者)	
	川瀬 宏文	中部地方整備局 河川部河川調査官(河川管 理者)	
	小山 真人	中部地方整備局 港湾空港部港湾空港企画 官(国有港湾施設所有者)	
関係行政機関	田中 敬也	国土交通省 水管理・国土保全局海岸室長 (海岸所管省庁代表)	
	安部 賢	国土交通省 港湾局海岸防災課長(港湾所管 省庁代表)	

また、学識者で構成する「愛知県高潮対策検討委員会技術部会」（平成 28、29 年度に開催）から、高潮浸水想定図の公表内容等に関して多くの助言をいただき、本公表資料を作成しました。

表－8 技術部会の構成委員（H29 時点）＜敬称略＞

	氏名	所 属	備考
学識者	喜岡 涉	名古屋工業大学 名誉教授	検討委員会委員
	水谷 法美	名古屋大学 教授	座長 検討委員会委員
	加藤 茂	豊橋技術科学大学 教授	
	北野 利一	名古屋工業大学 教授	
	加藤 史訓	国土交通省国土技術政策総合研究所 河川研究部海岸研究室長	
	鮫島 和範	国土交通省国土技術政策総合研究所 沿岸海洋・防災研究部 沿岸防災研究室長	

11 今後について

今回の高潮浸水想定区域図を基に、沿岸市町村では、高潮ハザードマップの作成や住民の避難方法の検討、地域防災計画の修正などに取り組んでいただくとともに、愛知県は市町村に対する技術的支援や助言を行っていきます。なお、今後高潮に関する新たな知見が得られた場合には、必要に応じて高潮浸水想定区域図を見直していきます。